

イクパスイ：カムイと交わるための捧酒箸

アイヌ文化において、人間と「カムイ」（神々）の世界は密接に結びついており、「イクパスイ」はその関係を維持する重要な道具として機能します。「イクパスイ」は人間の祈りを「カムイ」に伝える儀式用具です。

伝統的に「イクパスイ」はイチイやヤナギの木で作られます。長さ 30 から 40 センチメートル、幅 3 から 4 センチメートルで、端が丸められた平たい形をしており、一方の端は先細りになっています。それぞれの「イクパスイ」には「カムイ」が所有者の祈りを認識できるよう、所有者を表す彫刻が施されています。彫刻は写実的な描写から抽象的なデザインまで多岐にわたり、アイヌ文化で崇拝されているヒグマ、シャチ、カワウソ、鳥、魚、蛇などの動物がしばしば描かれます。

儀式の際、アイヌの男性たちは「イクパスイ」の先端を酒に浸し、人間と「カムイ」の間を仲介する道具である「イナウ」（祈りの木幣）の上に振りかけます。「イクパスイ」を通じて、アイヌは感謝を表し、導きを求め、幸運を祈ります。